28-29

(1)

島に人に

江南文三

冬されば夜ごとの夢に音づれる千里の外の浪

冬されば高うつ浪のあら磯に立ちたる人の影

し君はゆ

中野 江藤製

一日だに忘るる日とてあらざれば佐渡が島をや遠しと言はむ

冬の日のゆたかに照らすひむかしの廣野に立てばわれはさびしも

うつくしき日ざしを浴ぶることだにも心に染まずあら海を忘る

あゝ浪の小石大石からからとかきなす濱の音の忘しき

霏霏と降るみゆきの山の山そばのただ一輪のくちびるを忘る

中野 江藤製

荒海に見えつかくりつ漂へる島のありそに
きてし人を
島のみるしほたれてこそ亂れこそ待つらむ人を
をなげかむ人を
文三加胸さけむとす大佐渡の山を砕くと氷雨
降るらむ

中野 江藤製